



アルファ医療福祉美容専門学校新 2 号館

東京都町田市

設計・監理／岩崎克也建築設計事務所、オザワデザイン一級建築士事務所 施工／北野建設

「新しい学園の顔を創る」

医療福祉系専門学校の建替え計画である。敷地は町田駅の近くに位置し、6mの前面道路を挟んで同一クライアントの専門学校が近接する立地である。

本計画は、既存建物の各諸室面積を維持したまま、防音仕様で建替えるという与件のもと、始動したプロジェクトである。都市的な文脈と制約条件を読み替えながら、学園の新たな「顔」となる建築像の更新を目指した。

平面計画はL型の廊下に諸室を配し、2・3

階にはそれぞれ屋外空間を設けることで接地性を高めた。さらに、縦動線としての階段と、平面内を回遊しながら昇降する階段空間の双方を組み合わせ、立体的な回遊性を生む構成とした。

断面計画では、階高3.2mに抑えた構成を有効に活用し、階をまたぐ階段を介してインテリメイトな関係性の強化を図った。前面道路側に最大限のワイド寸法を確保し、街に対して開いた建築の「顔」を形成した。

(岩崎克也)



前面道路からの外観全景



アウトアークモンズ



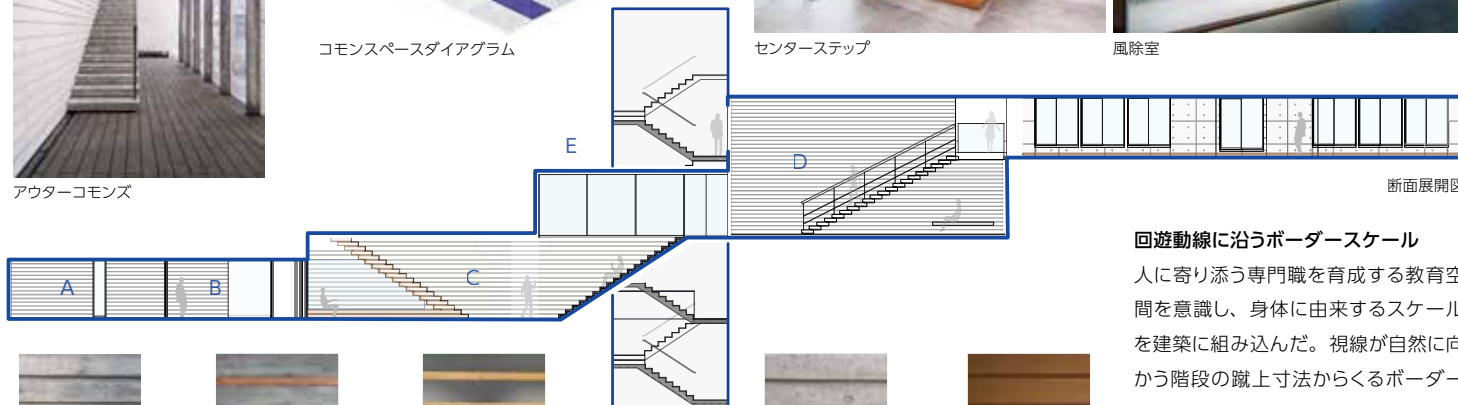
コモンスペースダイアグラム



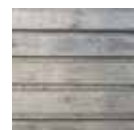
センターステップ



風除室



断面展開図



A: 杉本実型枠+RC凹ボーダー



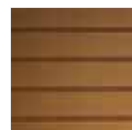
B: 杉本実型枠+木面ボーダー



C: SUS鏡面+木凸ボーダー



D: RC型枠+RC凹ボーダー



E: 木縁付け+木凸ボーダー

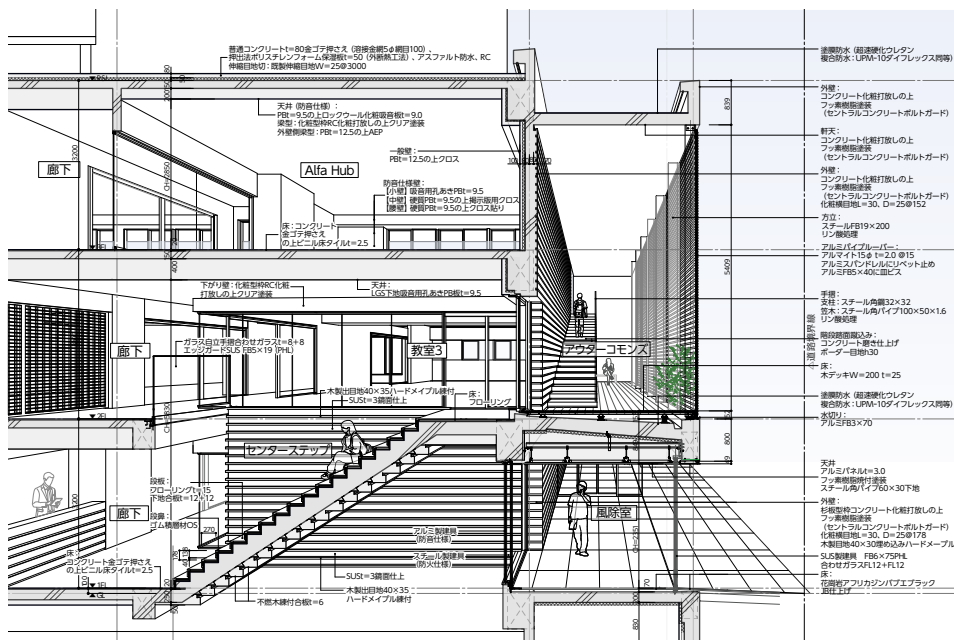
回遊動線に沿うボーダースケール

人に寄り添う専門職を育成する教育空間を意識し、身体に由来するスケールを建築に組み込んだ。視線が自然に向かう階段の蹴上寸法からくるボーダースケールを、一筆書きの動線に沿うように壁面へ投影した。RC・金属・木と素材を変えながら展開し、回遊の各シーンを縫い合わせた。(尾沢俊一)

「内外のコモンスペースを立体的につなぐ」

学生の居場所となる内外のコモンスペースを、連続する2つのL型として配置し、縦の階段室を含む複数の動線でつなぐことで「立体的な回遊性」を生み出す平面・断面計画とした。これらの回遊コモンスペースによって、教員と学生のコミュニケーションが自然に誘発される空間構成を意図している。

1階のセンターステップは階段教室としても利用可能な場とし、連続する2階のアウトアークモンズはルーバーに囲まれた半屋外空間として構成した。視線を丁寧にコントロールすることで、外部環境や多様な学修環境との関係性を組み込み、学びの風景がにじみ出る空間を目指した。さらに階段を上り3階のルーフトラスへと接続することで、立体的に連続したコモンスペースを獲得している。



「反射と透過／虚と実の併存」

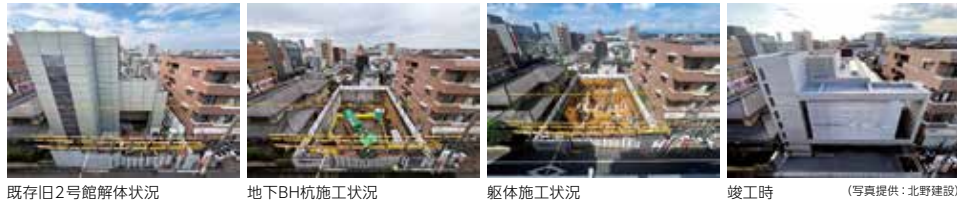
ガラス、アルミルーバー、ステンレス鏡面パネルを重層的に配置することで、幾重にも切り取られる風景を意図した。特にガラスを透過する斜めの視線は奥行きを強調し、限られたスペースを広く感じさせる効果を狙っている。丸型断面のルーバーは、光の拡散と透過という二つの機能を併せ持ち、季節や時間帯によって反射と透過の異なる表情を見せることで、空間の質を変化させる操作とした。さらに、階段教室に配したステンレス鏡面仕上げの壁は、虚像によって階段のスケールを倍化させ、エントランスの広がりを出すと同時に、ガラスと重なり合う風景によって空間の奥行きを強化している。(岩崎克也)



左上/1階階段室より見る 右上/センターステップ 左下/1階階段室 中央下/2階センターステップ・教室 右下/階段室よりアウトアークモンズを見る

施工計画

本計画地は、東側前面道路を挟んで既存4号館、三方を集合住宅と戸建て住宅に囲まれた立地であった。
この敷地で既存建物を解体し本建物を新築するにあたり、南・西側既存地下躯体壁を存置し山留壁として利用する計画であった。上屋解体を終えてから、既存躯体の位置やレベル、既存壁の壁厚を実測することで安全に山留壁利用できる



既存旧2号館解体状況 地下BH杭施工状況 躯体施工状況 竣工時 (写真提供：北野建設)

か監理者・施工者含め再検証し、施工を進めた。地下躯体解体後、止水の役割を兼ねた既存耐圧盤を施工地盤として利用、地下約5.5mにてBH杭を施工し基礎工事を開始した。基礎・地下躯体工事中は、構台を設置してBH杭打設や資材搬入を敷地内で行った。地上躯体工事は、前面道路にラフタークレーン・ポンプ車を配置して資材搬入とコンクリート打設を進めた。外壁は化粧打放し仕上げやボーダー躯体・本実打放し仕上げ、

と打設精度の管理が必要不可欠であった。そのため通常の打設人員に比べ、壁パイプ専門工を増員させ躯体精度を重点管理した。
仕上げ工事では、設計者の意匠性と防音工事を考慮し、設計者と打ち合わせを都度行い進めていった。非常に難易度の高い建物であったが、施主・設計者・協力業者の多大なるご協力のもと町田のシンボルとなるような建物を完成することができた。 (須部広輝／北野建設)



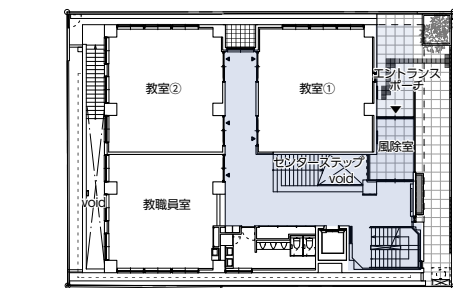
須部 広輝……すべ ひろき
1993年静岡県生まれ。2016年日本工業大学工学部建築学科卒業、同年北野建設入社。現在、同社建築部工事主任



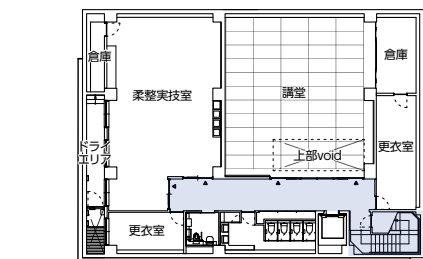
3階平面図



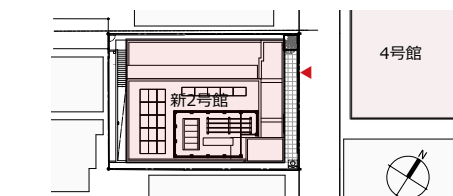
2階平面図



1階平面図



地下1階平面図 縮尺1/500



配置図 縮尺1/1,000

アルファ医療福祉美容専門学校新2号館 データ

所在地 東京都町田市森野2-15-13
主要用途 専修学校
建築主 学校法人 西田学園
設計・監理 岩崎克也建築設計事務所 担当/岩崎克也
オザワデザイン一級建築士事務所 担当/尾沢俊一
構造 第一建築設計 担当/鈴木威祐
設備 K-PLANNING 担当/池嶋千里
intacto 担当/立澤則人
インテリア協力 MINGLE Design Office
担当/佐々木里史、寺田健太郎、川上湖瑚路

施工 北野建設
担当/所長：須部広輝 次席：小林諒哉 現場統括部長：森一誠 設備：服部毅

設計期間 2023年8月～2024年3月

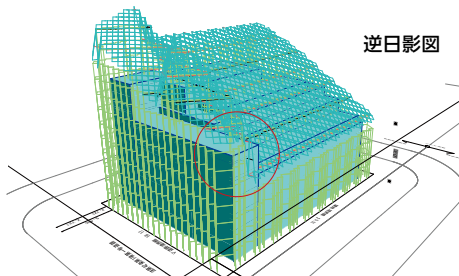
工事期間 2024年7月～2026年2月

【建築概要】

敷地面積 463.10㎡
建築面積 339.88㎡
延床面積 1,182.97㎡
建ぺい率 73.40% (許容100%)
容積率 250.59% (許容327%)
構造規模 RC造 地下1階、地上3階、塔屋1階
地域地区 近隣商業地域、防火地域



3階ルーフトラス



逆日影図

日影の影響範囲下のデザイン

計画地は日影規制の異なる3つの用途境に近接する。日影規制の影響範囲を検証し、イレギュラーな建物ヴォリュームを獲得できる場所を見いだした。これを利用し、前面道路側に整形な矩形をなすデザインの骨格を形成した。 (尾沢俊一)

【学校施設】

学部構成 医療・福祉
学生数 延べ400人
教室 教室×3
実習室 柔整実技室、介護実習室、入浴実習室、鍼灸実習室
その他 講堂
【主な外部仕上げ】
屋根 アスファルト防水外断熱仕様押えコンクリート
外壁 コンクリート化粧打放しの上フッ素樹脂塗装一部杉板本実型枠、アルミパネルt5焼付塗装
建具 アルミ製防音サッシ、スチール製ドア、SUS製自動ドア、アルミ製防音自動ドア

外部階段 コンクリート磨き仕上げ、手摺/スチール角パイプリン酸処理、強化合わせガラス自立手摺
テラス 床/木デッキ、手摺/スチールFBリン酸処理

【主な内部仕上げ】
教室・実技室 床/塩ビタイル、壁/上部：吸音穴あき石膏ボードの上AEP塗装 一般部：石膏ボードの上ビニルクロス貼 天井/ロックウール化粧吸音板
講堂 床/塩ビタイル、畳敷き 壁/コンクリート化粧打放し、不燃練り付け合板 天井/ロックウール化粧吸音板、一部不燃木仕上げ

階段2 床/段板木仕上げ 壁/ステンレス鏡面仕上げ、木目地 手摺/スチール丸鋼28φリン酸処理 天井/ロックウール化粧吸音板、一部不燃木仕上げ

撮影/近代建築社(新井隆弘写真事務所)
P.101夕景撮影/フォトワークス



岩崎 克也……いわさき かつや
1991年東海大学大学院工学研究科修了、同年日建設計。設計部長を経て2020年東海大学工学部建築学科教授。現在、同大学建築都市学部長・建築学科教授、岩崎克也建築設計事務所。著書「未来を拓くキャンパスのデザイン」彰国社、「LINKAGE-人・建築・都市を〇〇でつなぐ-」総合資格出版会



尾沢 俊一……おざわ しゅんいち
1992年早稲田大学大学院理工学研究科修了。鹿島建設建築設計本部チーフアーキテクト、文化庁芸術家在外派遣研修員、Studio Paolo Zermani(伊)勤務を経て、2007年よりオザワデザイン一級建築士事務所主宰

協力会社

| | |
|-------------------|-------------|
| 解体工事 | 三貴 |
| 型枠工事 | 南建興業 |
| 金属製建具工事 | 三和シヤッター工業 |
| ガラス工事 | 山田商店 |
| 打放しコンクリート面塗装仕上げ工事 | セントラルコンクリート |
| 左官工事 | 野沢組 |
| 内装工事 | 東邦産業 |
| フローリング・ウッドデッキ工事 | クロキ創建 |